

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究
分担研究報告書

「社会資源の共有」

研究分担者

荒川 歩・国立がん研究センター中央病院 小児腫瘍科 医長

研究要旨

小児がん患者に対する在宅医療を提供するにあたり、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報をまとめたハンドアウトやリーフレットを作成し、小児がんの治療に関わる主治医が患者の在宅移行を目指した時の一助にすることを目標とした。

令和元年度は、初年度は国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センター、大阪市立総合医療センター、あおぞら診療所の Medical social worker（以下 MSW）を中心として、どのような情報をどんな形でまとめることが良いのか、あるいは MSW を中心としたネットワークの構築が可能なのかを議論した。

令和2年度は、研究分担者の議論の中で MSW や看護師が実際の在宅移行における経験や現場で困っている事を共有して議論する事で、MSW や看護師のスキルアップにつながり、結果的にネットワーク形成にも寄与すると考え、Web で全国の MSW やコメディカルをつないでミーティングを開催する方針に変更した。2020年11月16日に11施設の MSW や看護師を対象とした Web ミーティングを実施し、その経験を踏まえ令和3年度に全国の MSW を対象とした Web ミーティングを実施すべく議論と準備を継続している。

A. 研究目的

本研究では、小児がん患者に対する在宅医療を提供するにあたり、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報をまとめたハンドアウトやリーフレットを作成し、小児がんの治療に関わる主治医が患者の在宅移行を目指した時の一助にすることを目標とする。

B. 研究方法

国立成育医療センター、国立がん研究センター中央病院、大阪市立総合医療センター、あおぞら診療所の MSW を中心として、班会議等で議論を行い、「社会資源の情報共有に関する検討」という主題に沿ってどのようなネットワーク体制を構築し、どんなアウトカムを次年度に作り出すことが可能かあるいは妥当かを検討する。

検討した内容を反映し、在宅移行を積極的に実施している病院の在宅クリニック

選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報をまとめたハンドアウトやリーフレットを作成する。

(倫理面への配慮)

本研究は医療機関間の情報共有について検討する研究であり、倫理面の問題は極めて少ない。ただし、例外的に非公開情報を取扱う場合には、守秘義務及び個人情報保護を厳守する。

C. 研究結果

令和元年度は、アウトカム創出に向けての MSW を中心とした研究体制を構築した。MSW との議論より、MSW を中心としたネットワークの構築については、第 2 回班会議の結果、①労力が大きいこと、②常に刷新が必要なこと、③各病院が地域ですでに独自のネットワークを有していることより、労力に見合ったアウトカムは得られないという問題点が明らかになり、ハンドアウトやリーフレットの作成のための在宅クリニック選定における Tips や終末期診療のノウハウを交換できるような情報収集及び内容の検討を開始した。

令和 2 年度に MSW を中心とした議論を更に進め、情報をまとめたハンドアウトやリーフレットの作成が、在宅移行に携わっている MSW や終末期医療を担当する看護師に有用であるかはっきりしないという結論となった。MSW や看護師の在宅移行における経験や現場で困っている事を共有して議論する事で、MSW や看護師のスキルアップにつながり、結果的にネットワーク形成にも寄与すると考え、

Web で全国の MSW やコメディカルをつないでミーティングを開催する方針に変更した。本研究の分担研究者の施設を中心とした、11 施設の MSW や看護師を対象とした Web ミーティングを 2020 年 11 月 16 日に実施した。その際に実施した参加者のアンケート調査結果や経験を踏まえて、現在令和 3 年度に全国の MSW を対象とした Web ミーティングを実施すべく議論と準備を継続している。

D. 考察

本分担研究は、実際の在宅調整を受け持ち、在宅移行に中心的な役割を担う MSW を中心として議論を進め、より効果的に現場の MSW や看護師間の情報共有が可能となることを目指した。元々本研究開始時点では「社会資源の情報共有に有用な手段」として何を指すかが決定しておらず、当初はハンドアウトやリーフレットの作成を目指したが、議論を重ねた結果、全国の在宅移行に携わる MSW と看護師を対象とした Web ミーティングを開催することを目標とすることとした。本年度中に、11 施設を対象とした Web ミーティングを実施しており、十分な Feedback を得られたと考える。次年度の令和 3 年度に大規模な MSW と看護師を対象とした Web ミーティングを実施すべく、現在さらなる議論を進めている。

E. 結論

令和 3 年度に大規模な MSW と看護師を対象とした Web ミーティングを実施すべく、現在さらなる議論を進めている。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

清水麻理子、石木寛人、荒川歩、白川奈美、小川千登世、里見絵理子. 当院 MSW による終末期小児がん患者の在宅移行の取り組み. 第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会. 2019 年 11 月 14-16 日. 広島.

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし